



名立まちづくり協議会 会報

2024 年 1 月 25 日発行

まち協だより

No.45【がんばろう!!2024!!号】



《『シン・名立』のまちづくり》

2004(平成 16)年 7 月に 14 市町村(当時)による市町村合併協定書の締結が行われ、翌 2005(平成 17)年 1 月 1 日に現在の上越市が誕生しましたので、上越市は間もなく“成人の日”を迎えることになります。ということは私たちの暮らす名立も同じなわけで、「新・成人の誓い」にならない、『新・名立の誓い』を考えてみたいと思います。

ところで、「新」は音読みで「シン」ですが、最近『シン・ゴジラ』とか『シン・ウルトラマン』とかのように「シン」という言葉を頭に付けた映画やアニメをご覧になった方も多いかと思います。これがみんな「新」という意味ではもちろんないようで、「シン」に充てる数多くの言葉の一ひとつの意味を大切にするのもよく、また、いくつかの意味が重なりあうことにより豊かなイメージを膨らませてもいい…ようです。

それでは『シン・名立』から思い浮かぶのはどんな名立でしょうか？



新、信、真、伸、心、清、親、進、深…、まだまだいっぱいあります(「震」もそうでした…)。

このように一つひとつの「シン」にはその言葉の持つ意味があり、みんな素敵な言葉です。

『鈴と、小鳥と、それから私、

みんなちがって、みんないい。』

金子みすゞの詩のように一人ひとりの暮らしも目指すまちづくりも同じではありません。

そうした一人ひとりの思いや願いを大切にするこ
とや重ね合うことで「一人ひとりの生命と暮らしを

守り、みんなでつくる誰もが安心して暮らせるまちづくり(「名立まちづくり計画」)を進める
ことができると考えます。

今年はとても悲しく、そして、不安な中での始まりになりましたが、こんなときこそ誰も
名立に愛着を持ち、名立を誇りに思い、みんなで支え合い、助け合いながらみんなの『シン・名立』
をつくっていきたいと思っています。

がんばろう!! 2024!!



《名立と地震》

平成 9 年 3 月に発刊された「名立町史」によれば、名立では古代から中世にかけて、天平 17 (745) 年、貞観 5 (863) 年、正安年中 (1299~1301 年)、文亀元 (1501) 年の 4 回地震が起きています。

そして近世には 3 つの大地震が発生しています。

慶長 9 (1614) 年の大地震では高田領内のほか海岸方面では津波による被害が大きかったとあり、その約 50 年後の寛文 5 (1665) 年の大地震では高田城が破壊し、城下では 700 戸余りの家が倒壊

したといわれます。

そして、3 つめの大地震が名立崩れを引き起こした宝暦元 (1751) 年の大地震でした。

名立崩れでは「名立小泊村の 91 戸中 81 戸が埋没し、428 名もの死者を出す大災害」(「名立町史」から引用)となりましたが、被害は名立小泊村に限らず、「小田島村、平谷村、東蒲生田村、池田村でも後ろの山が抜け崩れ、大きな被害を出した」(同上)とあります。

また、名立小泊村は北陸道の宿場であったことから、「山崩れのため交通が断たれたので、旅行者は遠く山道を回った」(同上)とあり、約 270 年前にも能登半島地震による国道 8 号の交通止めと

同様な事態が起きていたと考えると歴史の符合に驚かざるをえません。

その後、名立小泊村は奉公に出ていた人を呼び戻すなどして、地震後 20 年余りの安永 2 (1773) 年には戸数が 32 軒となり、震災前の約 1/3 までに回復した…と震災後の復興の歩みにも触れていますが、その道のりは困難を極めたのではなかったかと思います。

地震は近年でも県内を震源地とするものでは昭和 39 (1964) 年の新潟地震、平成 16 (2004) 年の新潟中越地震、平成 19 (2007) 年の新潟中越沖地震と続いていましたし、名立ではこのほか洪水や大火などに何度も見舞われましたが、その都度、先人たちのたゆまぬ努力により、今、私たちはこの名立で暮らすことができているということを改めて考えさせられました。

この自然豊かな名立を今度は私たちが次代に伝えていく責務があります。

もう 2 度とこうした悲惨な災害が起こらないように願うばかりですが、今回の能登半島地震やこうした名立の歴史を振りかえれば、「絶対…」ということはありません。もしものときに備えた準備と日ごろからの心構えをもう一度見直すことから始めたいと思います。



名立崩れ犠牲者供養塔



名立崩れ跡

《2024 お雛さま巡り》

地域の賑わいの創出に…と名立大町自治会が中心となって始めたお雛さま巡りも今回で 4 年目を迎えます。初回は名立大町 5 町内と公民館に 6 組の段飾りでスタートしましたが、その後毎年のように増えてきて今回は 13 会場で 21 組(個人・会社所有 2 組を含む)を飾る予定です。

ということで、今回は名立コミュニティプラザに一举(!) 7 組を展示するとともに、新たに名立区総合事務所内にもガラスケース(下写真参照)を展示しますのでどうぞお楽しみにお待ちください。また、毎年開催している“お雛さま巡りウォーキング&コンサート”も実施する予定です。

寒い時期ですが、あちこちでいろんなお雛さまに巡り会うのを楽しみにしててください。



なお、展示場所や期間等については後日チラシでお知らせします。

《誰もが気軽に…第 2 回まちなかサロン》



昨年 12 月 13 日に「地区も年齢も問わず、誰もが自由に気軽に集える場所」として第 1 回まちなかサロンを開催し、6 町内会から 8 人の参加者があり、和やかな時間を過ごしていただきました。この時期は雪や風などで荒れた天候が多く、そのため外出を控え気味になりますが、そうした季節だからこそみなでお茶を飲みながら楽しくおしゃべりする時間が大切になってくると思います。ということで、下記のとおり第 2 回まちなかサロンを開催しますので、どうぞお気軽にお出でください。

□と き: 1 月 31 日(水) 9:30~11:30

□ところ: 新町・牛木シズエさん宅

□内 容: 健康チェック、軽体操、茶話会、レクリエーションなど

□参加費: 200 円

《さいの神》

どの写真でもおわかりのように、1 月 14 日(日)は朝から気持ちのいい青空が広がる“さいの神日和”でした。

みなさんは無病息災、家内安全、無事平癒、学業成就、豊作豊漁…そして、能登半島地震により被災された多くのみなさんの一日も早い復旧・復興の祈り願いを燃え上がる炎に込めて見上げていました。

人口減少の中でこうした伝承行事を続けている 4 地区のみなさんに感謝したいと思います。



赤野俣



左《森・池田・桂谷》中《折平》
右《不動》



《灯の回廊に向けて“Road to Fudou”》

上越市の冬の恒例イベント「灯の回廊」が今年は2月17日(土)と24日(土)の2日間、会場を変えて開かれることになり、名立・不動地区は24日に開催される予定です。

去年は“Road to Fudou”として、北部～下名立～上名立～不動に至る県道脇にも趣向を凝らした明りが灯されました(下写真)。

今年も各地区のご協力をいただき、不動までの道も楽しんでいただければと思っていますので、ご協力いただける方はまち協事務局までお知らせください。



田野上	田野上	丸田
灯の回廊		ろばた館



【編集・発行】 名立まちづくり協議会 会長 三浦 元二

上越市名立区名立大町 200-1(名立地区公民館内)

担当:金子 僚子、石井 三千代

☎:025-537-2182 FAX:025-546-7041

✉: matikyo-nadati@bz04.plala.or.jp

ホームページ URL: nagatatsu.com



まち協 HP



インスタ